

# 令和8年度 学校経営計画表【定時制】

## 1 学校の現況

学校番号	10		学校名	県立太田第一高等学校				課程	定時制			学校長名	上田 英雄				
教頭名	[全日制] 益子 諭			[定時制] 青木 基泰			[附属中] 鐵 めぐみ			事務(室)長名		椎名 実					
教職員数	教諭	65	養護教諭	3(1)	常勤講師	4	非常勤講師	8	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	5	技術職員等	7	計	98
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	クラス数				
	普通科						0	2	1	0	1	2	2				

※養護教諭については3名中1名は養護助教諭。教職員数は兼務者もいるため、全・定・附中の全職員である

## 2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校

## 3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自他を尊重する心と、より良く生きるための自己指導能力の育成</li> <li>(2) 社会の一員として、持続可能な社会づくりに貢献できる力の育成</li> <li>(3) グローバルな課題に気がつき、問題を解決しようとする力の育成</li> </ul>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教師や友人とのかかわりの中で自己理解、他者理解を深化させる機会の設定</li> <li>(2) 社会生活に必要な知識・技能を学び直せるような個別最適化された学びの工夫</li> <li>(3) 思考力・判断力・表現力を磨く場面が多くなるような授業の工夫</li> <li>(4) 達成感や協調の意義を感じられ、自己効力感が高まるような学校行事の運営</li> </ul>
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	

## 4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力が定着していない生徒が多い。</li> <li>・学習に取り組む習慣が十分身につけていない生徒が多い。</li> <li>・多くの生徒が意欲的に学習に取り組んでいるが、指示がなくとも主体的に取り組める生徒は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの個性を理解し、ICT 等を活用しながら、個別最適化された学習指導を推進する必要がある。</li> <li>・<u>生徒の心身の安定を図り、学びに集中できる環境を整えるとともに、主体的に学習する態度を育成する必要がある。</u></li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの生徒は就職を希望しているが、勤労観・職業観が十分に形成されておらず、進路に対する意識が低い。</li> <li>・大学進学を希望する生徒もいるが、自分から情報を獲得し、主体的に学びに向かう姿勢は十分育っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>適切な勤労観・職業観を身につけさせるため、キャリア教育の充実を図る必要がある。</u></li> <li>・進学を希望する生徒には、適切な情報提供や学習支援等、個別の対応を充実させる。</li> </ul>
生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムを自分で整えることが苦手で、長期休暇や行事後に欠席しがちな生徒が見られる。</li> <li>・コミュニケーション能力は徐々に向上しているものの、自己肯定感が低く、自分の考えを表現することに消極的な生徒が多い。しかし、昨年度の学校評価アンケートでは、一昨年度と比較して、「学校生活や行事において、自分の役割の成果が認められていると感じるようになった」という問いや、「自分の思いや考えを説明できるようになった」という問いに対し、肯定的な回答がいずれも 100%に上昇した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者等と連携を図りながら、生徒に健康的な生活習慣の確立を促す工夫が必要である。</li> <li>・<u>引き続き、学校生活の中で他者と協働し、自己有用感を高めるとともに、自ら目標を設定し達成する体験の充実を図る必要がある。これらの体験を通して、「自分是可以る」という自己効力感の向上につなげていく。</u></li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超過勤務時間については月 45 時間を超える者はおらず、全体としておおむね良好である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、校務の効率化を図るとともに、教職員一人ひとりのワーク・ライフ・バランスの確立に向けた環境整備が必要である。</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

5 中期的目標

- |   |
|---|
| (1) ICT等を活用した、生徒一人ひとりに応じた個別最適化された学びを実現する授業の確立 |
| (2) 社会に出る前に適切な勤労観・職業観を身につけられるようにするキャリア教育の充実   |
| (3) 教師や友人たちとの関わりの中で、自己理解・他者理解を深める機会の充実        |
| (4) 達成感や協働の意義を実感でき、自己効力感が高まるような学校行事の運営        |
| (5) 教育の質向上に資する業務の効率化による教職員の心身のゆとりの確保          |

6 本年度の重点目標

個別最適化された学びの推進	・ 生徒による授業満足度の平均値 85%以上
キャリア教育の充実	・ 学校評価アンケートにおける「自分の進路を実現するために必要な指導がよく行われている」に対する平均点 4.5 以上（5段階評価） ・ 全職員による 1 人 1 回以上のキャリアガイダンスの実施
学校行事の創意工夫	・ 学校評価アンケートにおける「学校生活や行事において、自分の役割の成果が認められていると感じるようになった」に対する平均点 4.5 以上（5段階評価） ・ 年間行事参加率平均が 80%以上
教職員の適切なワーク・ライフ・バランスの実現	・ 1 年間における、1 か月当たりの時間外在校等時間の平均が 30 時間以内である割合及び、1 か月の時間外在校等時間 45 時間以内である割合を、いずれも 100%